

所属・氏名（ 看護学部 看護学科 氏名：宮本 純子 ）

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1	(学術論文) Communication for self-care and the role of a logbook on health risk during a flood disaster 《筆頭論文》	共著	2023 年 3 月	Health Emergency and Disaster Nursing 10(1) 29-40	平成 30 年 7 月西日本豪雨災害で被災したログ ブックの利用者への聞き取り調査を実施。被 災当初は、目の前の出来事に対処することで 精一杯であったが、被災後 2 ヶ月目は、経験 を振り返る時間を持つことができるターニン グポイントになっていた。その際、直面する 問題についての情報共有が重要であることが 確認された。ログブックの役割は「振り返り に役立った」「心が安らいだ」「連絡に役立っ た」「季節の行事を思い出させてくれる」な ど。外部からの支援が困難な災害時であって も平常時に培ったセルフケアや地域社会との つながりが不可欠であることが示唆された。 <Junko Miyamoto, Noriko Hatakeyama, Sakiko Kanbara>
2	(学術論文) COVID-19 感染者が救われ たと感じた言葉掛けやサポ ート—軽症者療養施設入所中の 療養者への調査から	共著	2022 年 11 月	地域保健 11 月号, PP56-59	兵庫県下に設置された4つの宿泊施設に入所し た 16 歳以上の者を対象とした。調査は第3波の 期間に行った。感染者が抱える感染や宿泊施設 での療養に対する不安や心配は、【診断がつく までの不確かさと恐怖】【診断直後のパニック】 【家族への影響】【疾患の感染性】【症状・病状の 経過】【宿泊施設での療養生活】【療養期間終了 後の社会生活への復帰】であった。気持ちが楽 になった、救われたように感じたサポートや言葉 掛けとして、【休息を促し心身を気遣う言葉掛け】 【罪悪感を和らげる言葉掛け】【メール等での継 続的なやりとり】【体調の把握や確認と症状経過 の説明】【保健所(保健師)からの毎日の電話】 【安心できる口調での会話と傾聴】【すぐに対応し てもらえることへの安心感】【不安への気遣いと対 応】等が挙げられた。 <高田大樹,牛尾裕子, 稲垣真梨奈, 宮本純子, 水川真理子, 藤田さやか, 増野園恵>
3	(学術論文) Changes in metacognitive strategy use by nursing students during the COVID-19 crisis. 《筆頭論文》	共著	2022 年 3 月	姫路大学大学院看 護学研究科論文, 第 5 号, pp. 65-69	2020 年入学の A 大学看護学生 1 年後のメタ認 知方略の変化を調査した。「自分の得意不得意 を知っている」を除いて、両調査の質問に対する 回答に差はなかった。自由記述の内容は学習環 境、心身への負担、学習姿勢、行動自粛に分類 された。パンデミック禍の学習環境は、新たな学 習スタイルへの変化を伴っている。 <Junko Miyamoto, Sachiko Takahashi, Sayaka Fujita>
4	(学術論文) First-Year Nursing Students' Knowledge of Metacognitive Strategies in the COVID-19 Learning Context	共著	2021 年 3 月	姫路大学看護学部 紀要, 12, pp. 1-7	2020 年入学の A 大学看護学生のメタ認知方略 を調査した。質問 23 項目の質問全てに回答した 98 人は、「同意する」「強く同意する」という肯定 的な回答をした。コロナ禍の影響を強く受けた学 生を、学修の自己評価・振り返り・計画ができる 自立した学習者として育てていく必要があり、メ タ認知方略に関する経年変化を調査していく。 <Sachiko Takahashi, Junko Miyamoto, Sayaka Fujita>